

はじめに

委員長 今井 菊男

昨年度、ことわざ、言伝え、方言などを中心にまとめましたが、こんなことも記録しておいた方が良いのではないかとこのものが次々と出てきました。1年間で終えるつもりで委員会を立ち上げましたが、内容が多くなるにしたがって膨大な量になるのではないかと、3年間にわたって編集しようということになりました。今年は、遊びを中心とした内容に、来年度は天道の過去について掘り下げようというものです。

私たちが行っているのは、学術的なものではなく、半世紀ほど前のことを扱っています。年配の方が「昔はこうだった」などと話すのは、自分たちが子どもの頃を思い出して話しているのであり、まさにその時のことを記録しておきたいと思ったからです。

今年は、昔の遊びを中心にして編集しています。当時は現在のように物が無い時代でしたが、子どもは一人遊びや友達との遊びを工夫して遊んでいたものです。アナログ時代でしたが、現在の子供にとっては新鮮味があるかもしれません。この冊子を通して、大人と子供がいっしょになって遊んでくれれば幸いです。

目次

はじめに	1
1 ボールを使った遊び	
・ 町人（士農工商）ニチョコ 四チョコ	7
・ 三角ベース	7
・ まりつき	7
・ ドッジボール（ドッチボール）	7
2 自然の遊び	
・ かいどり（かいだし、かいぼり）	8
・ ぼんつく、ぼんすけ（鮒、ドジョウ、ライギョ）	8
・ ザリガニとり（釣り）	9
・ 魚釣り（鮒、コイ、ハヨ）	9
・ 魚採り	9
3 草花遊び	
・ オオバコのカ比べ（相撲）	10
・ クローバー遊び	10
・ ホオヅキ笛	10
・ 手裏剣（しゅりけん）	10
・ タンポポ笛	10
・ 笹舟	10
・ カラスノエンドウ（シービービー）	11
・ 杉玉でっぼう	11
・ 数珠玉でっぼう	11
4 虫つかみ	
・ セミとり	11
・ カブトムシとり	11
・ ホタルとり	12
・ トンボとり	12
・ アリ地獄とり	12
・ 地蜘蛛探し	12
・ ヘボとり	13

・イナゴとり	13
5 動物とり	
・スズメとり	13
・シジミ、ツボドン（タニシ）とり	13
・サワガニとり	14
・ドジョウとり	14
・ウナギとり	14
・その他の魚とり	14
・カスミ網	14
6 自然の中で	
・秘密基地ごっこ	14
・木登り	14
・土手すべり	15
・水切り	15
・水遊び	15
・水泳	15
7 正月の遊び	
・こままわし	15
・竹馬	16
・凧揚げ	16
・羽子板	16
・かるた、百人一首（坊主めぐり）	16
・福笑い	16
・すごろく	16
8 いろいろな鬼ごっこ	
・Sデック	17
・すいくちかん（水駆逐艦）	17
・どろけい（けいどろ）	17
9 小道具を使った遊び	
・あやとり（毛糸で）	18
・王冠バッジ	18

・なわとび	18
・お手玉（おじゃみ、おじゃめ）	18
・竹おじゃみ	18
・おはじき	18
・かっちゃん玉（ビー玉で）	19
・缶けり（かんけり）	19
・かっぼん、ぽっくり（空き缶と縄で）	19
・ぞうり投げ	19
・くぎさし（釘で）	20
・砂鉄取り	20
・鉄砲	20
・銀玉てっぼう	20
・煙の出る紙	20
・ゴムとび（男跳び、女跳び、逆立ち跳び）	20
・ゴム取り	20
・自転車のリム	20
・竹鉄砲	20
・竹棒遊び	21
・ぱっかん（新聞紙で）	21
・ハンカチ落とし	21
・てるてるぼうず	21
・ぱんけん（けんぱん）メンコ	21
・水鉄砲（竹鉄砲）	22
・わりばし鉄砲	22
・ゴム鉄砲（ゆび鉄砲）	22
・竹とんぼ	22
・竹すべり	22
・段ボールすべり	22
・将棋	22
・パチンコによる投石	23
・チャンバラ	23
・ままごと	23
・紙ずもう	23
・けん玉	23

10 道具を使わない遊び

・おしくらまんじゅう	24
・ぽこぺん	24
・かくれんぼ	24
・かげふみ	24
・けんけんぱあ	24
・ぞうきんとび	24
・陣取り	25
・だるまさんがころんだ	25
・にらめっこ	25
・手合わせ	25
・でんでんむし（うずまきじゃんけん）	25
・うでずもう	25
・ゆびずもう	25
・うまのり	26

11 冬の遊び

・雪だるま作り	26
・雪合戦	26
・氷すべり	26
・霜柱踏み	26

12 昔の手作りお菓子、おやつ

・おこしもん	27
・柏餅	27
・ボロ	27
・おへぎ	27
・焼き芋	27
・干し芋	27
・鬼まんじゅう	27
・鉄砲味噌	27
・サトの木（サトウキビ）	27
・ぼたもち（おはぎ）	28

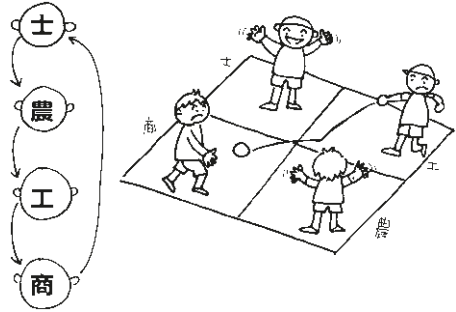
13 自然の恵み

・野イチゴとり	28
・桑の実とり	28
・アケビの実とり	28
・イタドリの茎	28
・セリ・スイバ・ツクシ・ワラビ	28
・ツツジの蜜	28
・ヨモギ	28
・グミ	28
14 わらべ歌	
・一羽のカラス（なわとびうた）	29
・一かけ二かけ	30
・茶摘み（手遊び）	31
・じょんじょろじょろかくし（全員の靴の片方を並べて）	32
・いちばんはじめは（なわとび歌）	32
・棒が一本あったとき（おえかき歌）	34
・あの子がほしい	34
・あんたがたどこさ（まりつき歌）	35
・ずいずいずっころばし	35
・かごめかごめ	36
・とおりゃんせ	36
・天道子供会の歌	37
・おじょうさんおはいり（なわとび歌）	37
編集を終えて	38

1 ボールを使った遊び

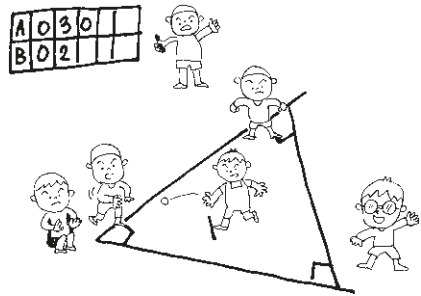
◆ 町人（士農工商）ニチョココ 四チョココ

地面に正方形の田の字をかいてソフトテニスボールを打ち返す球技。この地域では、「士農工商」と呼んでいた。初めにボールを持った者は、必ず自分の陣地内にボールをワンバウンドさせて対角線上の敵陣地内に球を入れる。その球が来たら、ワンバウンドで他の者の陣地に入れる。それができなかつたら、位が下がる場所に行く。



◆ 三角ベース

ソフトテニスボールを使って二塁なしの形で一塁、三塁、本塁の三角の形をした場所で野球のようなルールの遊び。ふつうは下から投げる。野球やソフトボールと違って「透明ランナー、投げ当て」といった特殊なルールも存在する。



◆ まりつき

まりをつきながら歌ったり、足を上げてくぐらせたり交差させたりして、最後は両足の下にバウンドさせておしりのところまでとる。

◆ ドッジボール（ドッチボール）

バレーボールほどのコートをかき、二つのチームに分かれて、ゴム製のボールを相手にぶつけ合う遊び。きたボールを受ければゲームが続行されるが、ボールが地面に落ちるとあたった者は外に出る。外に出た者も中の人を攻撃でき、あてると中に戻れる。全員外に出たチームは負けとなる。

2 自然の遊び

◆ かいどり (かいだし、かいぼり)

昔の田んぼの用排水路は、現在のコンクリート水路と異なり土水路で、幅と深さは50cm程であり、年中水が流れていた。「かいどり」とは、魚を取る方法の一つで、道具(タモ、ヨロゲ)で取るよりも一定の範囲の水路の魚を全て取る方法で、具体的には水路の途中を上流、下流の2カ所を土でせき止めた後、バケツでせき止めた範囲の水を全て汲み出し、出てきた魚を一網打尽に取った。労力を要するため1人ではできず3人以上で力を合わせて行った。場所は、現四郷町千田を流れていた柳川の西から籠川までの水田水路で、籠川(大川)は、川が大きすぎるため、「かいどり」はしなかった。柳川での「かいどり」は、子供ではできなかったが、時折大人の方が数人で大きな鮒などを取っている姿を見かけた。

捕獲できた魚は、鮒、メダカ(正式名称 ミナミメダカ)、ハヨ(ハエとも言う 正式名称 オイカワ)、サクラバエ(オイカワの雄で婚姻色)、モロコ(正式名称 タモロコ)、どじょう、シマドジョウ、ザリガニ(正式名称 アメリカザリガニ)などであった。

◆ ぼんつく、ぼんすけ

「ぼんすけ」とは、追い込んだ魚をタモやヨロゲ(ザル)で取る遊びである。田んぼの狭い水路や籠川(大川)で、一人の時はタモに自分の足が届く範囲の魚を追い込み、二人一組で行う時は、一人が上流から魚を追い込み、下流の一人が構えていたタモに入ってくる魚を取る。

「かいどり」は3人以上で行うもので、頻繁にできるものではないが、「ぼんすけ」は一人でも容易にできる遊びである。

籠川での魚とりは、田んぼの中の土水路と異なり、動きの速いハヨ(オイカワ)が主流であるため、魚とりの道具は店で購入した透明度の高い糸で編んだタモを使用した。

籠川で捕獲した魚介類は、オイカワ(ハヨ、ハエ、サクラバヨ(繁殖期にはオイカワの雄は婚姻色の桃色となることからこう呼ばれた。))、カワムツ、カマツカ、ウナギ、シマドジョウ、ヨシノボリ、モズクガニ、ザリガニ(アメリカザリガニ)など

◆ ザリガニとり（釣り）

昔はいたるところにアメリカザリガニがいて、魚取りをしているとよく網に入ってきたが、やっかいもので捨てていた。遊びとしてのザリガニ釣りは、餌（殺したカエルの皮を剥がしたものや殺したザリガニの親の尾の皮を剥がしたもの）を紐に括り付け、川や池に投入し当たりを待つ。その後、ザリガニはハサミでしっかり餌を挟む習性があるため、針がなくても釣りとして成立するという遊びである。

昭和30年代中頃までは、清流で釣った大量のザリガニは家に持ち帰り、母親に真っ赤になるまで煮てもらい伊勢エビ風のザリガニを家族で食べることもあったが、その後体に良くない寄生虫がいるとのことで食べる習慣は無くなった。

場所：柳川（清流）、濁り池

◆ 魚釣り（鮒、コイ、ハヨ）

昔の天道地区の魚釣りは、道具を床貴商店で買い、竿は近くの竹藪で手頃な太さの竹を切ってきて、枝を落とした竹竿に道糸と仕掛け、ウキを付け、家の周りの排水路等にいるミミズや購入した餌を付けて行った。

濁り池では鮒、鯉、ザリガニが釣れた。ドシャ（現在の井上公園プール一帯にあった池）では鮒、鯉、ライギョ、ハヨ（オイカワ）、カワバタモロコなどが釣れた。

◆ 魚採り

セルビン

ビンドウと呼んでいた記憶がある。ビンはガラス製で強い衝撃があると割れてしまうこともあり、その後プラスチック製へと変化し、現在ではペットボトルを活用した方法も紹介されている。

魚の採り方は、流れの緩い川の水深30cm程の所にさなぎ粉や練り餌などを入れ、綿の布で口を塞ぎ沈める。上流に口を向け、30分程経過したら引き上げ、中に入っている魚を採る。採れる魚はオイカワ、カマツカなどで、思いのほか沢山採れることもあった。籠川は流れが速いためこの漁法は向かず、柳川で行った。

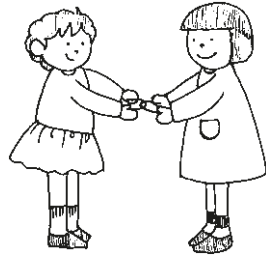
刺し網（チンカラ）

刺し網は当時高価で子供が入手できるものではなかった。大人が籠川で使用しているところを見かけたことがある。中層を素早く泳ぐ魚（オイカワ）はタモ網などで採るのは難しく、泳いできそうな場所に設置し、上流から魚を追い込み編み目にひっかかった魚を採る。

3 草花遊び

◆ オオバコのカ比べ（相撲）

道ばたに生えているオオバコの茎は、他の草と比べ繊維が多く丈夫なため、互いに太い茎を取ってきて交差させ切れた方が負けというゲーム。



◆ クローバー遊び

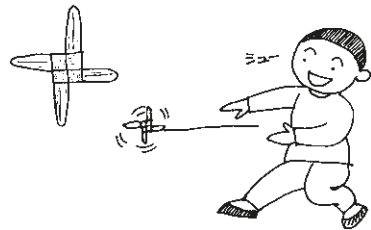
四つ葉のクローバー探し、シロツメクサの花で頭にのせる飾りを作る。

◆ ホオヅキ笛

頬月（ホオヅキ）実を破らないよう中から種を出し、きれいに洗い口の中に入れ、キュッキュッと鳴らす。

◆ 手裏剣（しゅりけん）

マキの葉をあんで、十字のシュリケンにして遊ぶ。



◆ タンポポ笛

タンポポの茎で笛を作り、鳴らす遊び。

◆ 笹舟

笹で作った小舟を小川で流す遊び。



◆ カラスノエンドウ（シービービー）

春先に、道ばたに生えているカラスノエンドウの実（エンドウの実を小さくした形）で、笛を作り鳴らす遊び。

◆ 杉玉でっぼう

細い竹筒に杉玉を入れ、トコロテン作りの要領で棒を差し込み圧縮された空気により杉玉を飛ばす遊び。

◆ 数珠玉でっぼう

細い竹筒に杉玉でっぼうと同様にジュズダマや新聞紙をつめてとばす遊び。

4 虫つかみ

自然のなかの虫たちは、格好の遊び道具でもあった。飼育を通して虫の動く様子を観察したりしたが、生き物であるため、死んでしまうことがよくあった。今ではかわいそうなことをしたと思うが、命を意識する機会でもあったと思う。

◆ セミとり

昔の蝉採りの方法は、今の「タモ」以外に「モチ」や「粘りけの強い糸で作られた蜘蛛の巣を枝に巻き取ったもの」で採集した。今では少なくなっているニイニイゼミが6月に始まり、アブラゼミ、お盆過ぎからはツクツクボウシとなる。クマゼミは昭和の時代は見かけることはなかったが、平成に入り温暖化により南方から北上してきたものである。

◆ カブトムシとり

カブトムシとりのターゲットはオスで、5月上旬のコクワガタ、ヒラタクワガタから始まる。カブトムシ（通称 本カブト）、ノコギリグワガタ（通称 クワガタ）は7月中旬からとなる。誰がシーズン一番にカブトムシを捕まえるか争ったものである。希にクワガタの大きなメスが捕れることがあったが、通称エベッサンと称していた。

捕まえたカブトは、虫かごで飼育したり、仲間うちで角バトルをして遊んだものである。7月からはスイカを餌に飼うのであるが、スイカは水分が多いためかまもなく死んでしまうことが多かった。また、スイカは腐敗

しやすく「臭い」と家族の者に嫌がられたものである。カブトムシを採りに行くと、そこには必ずカバブン（カナブン、クソヒリブンブン）がいて、それを捕まえ頭にたこ糸を結び、勢いよく飛ばせる遊びもしたものである。

※正式名称はカブトムシであるが、通称は本物のカブトムシという意味で本カブトと呼んでいた。

※ミヤマクワガタ、オオクワガタを天道地区で採取したところを見たことはない。採集場所は、雲龍寺裏の墓地、大墓及びその周辺。

◆ ホタルとり

7月に入ると夕暮れから柳川周辺でホタルが舞っていた。夜は暗く危険なため、親同伴で出向きタモや素手でホタルを取り虫かごに入れて、ホタルの光で勉強はしなかったが、夏の夜の風情を楽しんだものである。

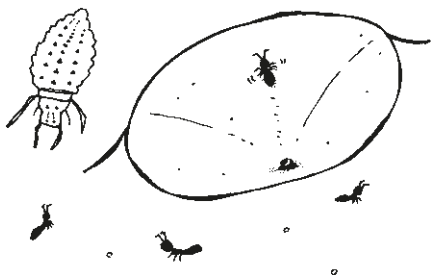
天道地区にはゲンジボタルはおらず、ヒメホタルかヘイケボタルである。今でも加納町から舞木町にかけての籠川では、ゲンジボタル（ヘイケボタル）の保護活動が行われていることもあり乱舞を見ることができる。

◆ トンボとり

タモを使って取るのであるが、大型のオニヤンマを捕まえるのは至難の業であった。大概是、シオカラトンボやギンヤンマであった。

◆ アリ地獄とり

雲龍寺本堂の軒下には、アリ地獄と呼ばれるウスバカゲロウの幼虫が生息していた。アリ地獄と言われる由縁は、地面に逆三角錐の巣を作り、底に潜んで落ちてくるアリを捕食するところからである。一旦落ちたアリは歩んでも砂が崩れてくるため抜け出すことができず、力尽きて捕食される。どこにでもいるというものでなかったため珍しくて、アリを捕まえて穴に入れ捕食されるシーンを観察したものである。



◆ 地蜘蛛（じぐも）探し

中央保育園（現中央子ども園）の垣根として植えてあったマキノキの根元に袋状の巣を破って地蜘蛛を探し出した。

◆ ヘボとり

ヘボ（正式名称 クロスズメバチ）とりは、秋にヘボの巣を見つけ、巣に居るヘボの幼虫を採取してヘボ飯として食べることである。ヘボの巣を見つける方法は、ヘボは餌を巣に持ち帰る習性があることから、追跡用の綿をヘボの体に付け、ひたすら追跡して土手にある巣を見つけ、ヘボに襲われないよう煙を炊き、スコップ等で掘り返して巣の中の幼虫を採取する。ヘボの追跡は、スピードと体力が必要なため子供では無理であった。

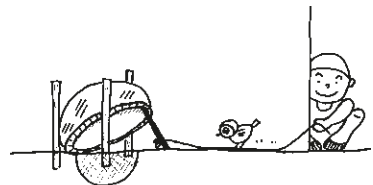
◆ イナゴとり

イナゴ（正式名称：コバネイナゴ）は一時ほとんど見かけなくなったが、最近では昔ほどではないが見かけるようになってきている。除草剤を使わなかった昭和30年代は、田んぼの農道を歩けば踏むほどイナゴが発生しており、親とともに田んぼに出かけた際、親は農作業で子供はイナゴ取りをし、取ったイナゴをビニル袋に入れて持ち帰り、母親が甘露煮にして食べた。また鶏のエサにしたこともあった。

5 動物とり

◆ スズメとり

方法は一つでは無いと思われるが、スタンダードな方法として地面にスズメの餌として米粒を蒔き、餌の上に紐の付いた棒に支えられたザルを被せ、紐の端を持ちながらスズメから身を隠し、スズメ



がザルの下に入ったところを見据えて紐を引きスズメを捕獲する。捕ったスズメは焼き鳥にして食べることが多い。

◆ シジミ、ツボドン（タニシ）とり

稲刈り後、田んぼにいるタニシをとってネギと合わせて甘みそをつけて、食べた。シジミは、柳川の西側にあった水路は、今も亀首町南端の田んぼの林の中に（薬師如来）社があるところから湧き出る泉を水源としており、水温が常に低く清流であったため、主に冬場には水路の砂の中にいるシジミを捕って食べた経験がある。希にカラスガイ（ダバス）も取れたことがあった。

◆ サワガニとり

天道地区で唯一サワガニがいたのは、柳川の西側にあった水路は、今も亀首町南端の田んぼの林の中に社があるところから湧き出る泉を水源としており、水温が常に低く清流であったためサワガニがいたが、飼育や食材目的に取ったことはない。

◆ ドジョウとり

田んぼにある土水路の中には、冬場に水枯れしているところがあり、底をスコップで掘ると冬眠しているドジョウが数多く取れ、家に持ち帰り料理して食べたことがある。

◆ ウナギとり

矢作川で夜、竹で編んだ仕掛けを使って中に餌を入れて朝まで沈めておくとウナギが入っていることがある。

◆ その他の魚とり

すて針、ゆげ、投網、ヨロゲ すき ザルなどを使って魚採りをした。籠川には、カマツカ（イシャン）、ヨシノボリなどがとれた。

◆ カスミ網

鳥を捕まえる道具で、鳥に見えないぐらい細い糸で編んだ網を使って夜明けや夕方の薄暗くなった時にツグミなどの渡り鳥を捕った。現在は、禁止されている。大人の遊びであった。

6 自然の中で

◆ 秘密基地ごっこ

秘密基地ごっことは、2人以上で手作りの家を作り、そこを秘密基地と称して遊ぶことである。林や畑の一角に、枝や葉っぱ・草で覆った小さな家を作る。

◆ 木登り

木に登るのは、男の遊びで、いかに高いところまで登るか競った。高いところから眺める景色は、普段の眺めと違った。虫を捕まえるときにも登った。

◆ 土手すべり

段ボールを使って上から滑り下りた。スピードを出してスリルを味わった。

◆ 水切り

水面に向かい平らな石を投げ、水面に石を跳ね飛ばす回数を競う遊び、
場所：濁り池、籠川（大川）

◆ 水遊び

昔は、小学校にプールが無かったため、天道地区の学童は柳川のポンプ場付近で、夏場で水量が少なくなった浅い川を、大人が土のうなどで水をせき止め遊泳したものである。上流からはスイカやウリがよく流れてきた。遊泳時には、万が一に備え保護者が交代で見張りをしていた。

また、岸边には今ではほとんど見かけないイシガメが沢山甲羅干していた風景が懐かしい。

◆ 水泳

小学校高学年になると枝下用水で水泳することとなるが、水深が深いのと流れが速いため、泳ぎの苦手な者はなかなか用水に入れずに居ると、年上の者に後ろから押され、無理矢理泳がされるのだが、泳げず対岸の野バラにしがみついたり、下流にあるロープにしがみつき、溺れないようにしたものである。

7 正月の遊び

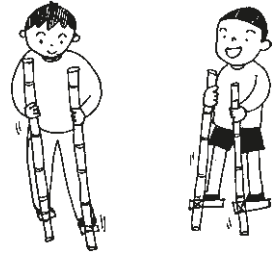
◆ こままわし

金属・木製のこまをいかに長い間回せるかを競うことはあったが、このあたりでは、ベイゴマ遊びはしなかった。



◆ 竹馬

二本の竹に乗って歩いたり、早足したりする遊びである。竹馬は市販されているものではなく、各自が自作するのであるが、小学生低学年では作成することはできなかった。したがって、作成するのは中学生以上や大人が行った。



◆ 凧揚げ

凧揚げは北西の風が吹く冬に、障害物（電柱、木等）の無い広場で行う遊びで、遊び方はシンプルで、店で買ってきた凧に新聞紙などを切って足を作り、凧に貼り合わせ凧糸を結べば遊び準備完了。

◆ 羽子板

羽子板は今では飾るのが主であるが、昭和の時代は子供も大人も羽子板で羽根つきをして遊んだ。本来はムクロジという樹木の種子に羽根を付けたものを羽子板で打つ。打ち損なった場合は、顔に墨をつけられたりした。

◆ かるた、百人一首（坊主めくり）

小さかったときは、普通の百人一首ではなく、坊主めくりでよく遊んだ。絵札の僧が出たら持ち札を1枚出す。姫が出たら3枚もらえる。台座に乗る男が出たら5枚もらえる。坊主でたまった札は、蟬丸が出たら全部もらえるルールであった。

◆ 福笑い

正月遊びの定番である。白い紙に顔の輪郭を書き、目や鼻、口、耳などのパーツを作成後、目隠しした状態でパーツを配置し、どんな顔になるかを楽しむ。福笑いのパーツは、よく少年・少女雑誌の付録に付いていたものである。

◆ すごろく

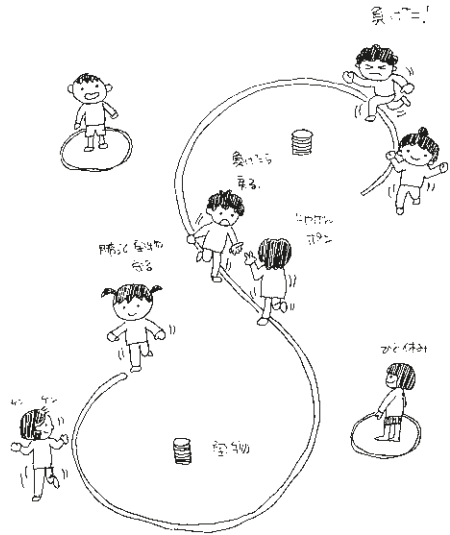
サイコロを投げて出た数だけ自分のコマを進める遊び。振出からゴールまでの間にあるマスには「1つ戻る」「5個進む」「振出に戻る」などのマスを設けて遊ぶ。雑誌の付録についてきたこともあった。

8 いろいろな鬼ごっこ

子供が行ったものとして、外で遊ぶ。参加者（メンバー）の中から鬼を決めてそれ以外の者は「子」として決めた時間内に逃げ、鬼となっている者が子に触れたら鬼が交代して、遊びが継続される遊び。

◆ Sデッキ

S字型に線をかいたコート内を二つのチームに分かれて、片足でケンケンしながらコートの外側を通して、同時にスタートを開始したチーム同士が出会ったところで、じゃんけんをして、相手チーム内の陣地へ侵入し、宝をとる遊び。



◆ すいくちかん（水駆逐艦）

参加者がほぼ等分に分かれて、それぞれのチームで戦艦、駆逐艦、水雷艇での割り振り、戦艦は敵の駆逐艦を、駆逐艦は敵の水雷艇を撃沈させることができ、戦艦が撃沈された場合（戦艦役が捕まった場合）に捕まったチームが負けとなる。役職を表す方法として野球帽のツバが正面向きの場合「戦艦」、横向きは「駆逐艦」、後ろ向きが「水雷艇」と表した。

◆ どろけい（けいどろ）

鬼ごっこの一種であり、警察と泥棒に分かれて戸外で遊ぶ。警察になった役の者が泥棒の役の者を捕まえてあらかじめ決めてある場所「牢屋」に入れるという設定で、牢屋に捕まられている泥棒を仲間が助け出し、再びゲームに泥棒として参加できるという遊び。

9 小道具を使った遊び

◆ あやとり（毛糸で）

毛糸を使い2人以上が遊ぶことができた。まず、1人が両手の指で毛糸による橋（ブリッジ）を作り、相手も両手の指で橋（ブリッジ）を受け取った後、形を変えて他の者に渡していくゲーム。



◆ 王冠バッジ

瓶の栓をバッジにみたてて胸につけた。色付けをして勲章らしくしてアクセサリーとして作った。

◆ なわとび

3人以上で二人が縄を回して他の子が跳んだ。1回とびや連続とびなど、いろいろな跳び方をしたり、歌を歌って跳んだ。

◆ お手玉（おじゃみ、おじゃめ）

直径5cm程の球状の布の中に大豆や小豆などを入れた玉を5個持って遊ぶ。お手玉は5個一組で、親の色を変えていた。歌にあわせ、手を使って、一定のルールのタイミングで放り上げて楽しむ。複数の玉を同時にほり上げるなど難度を上げ、ジャグリングに似た要素があり、技の上達を楽しむことができる。伝統的に女の子の遊びで、男の子がお手玉で遊ぶことはあまりない。

◆ 竹おじゃみ

20cm ぐらいの竹ひごで表側が皮で緑色、裏が竹の内側で白色、手の甲にのせ、順番におろしていく。

◆ おはじき

- ① 各自数個ぐらいの「おはじき（ガラス玉を潰した平らなもの）」を出し合い、テーブル等の上に散りばめる。
- ② 近くにある「おはじき」を1個選び、指先ではじいて飛ばし、他の「おはじき」に当てる。この時、まわりの「おはじき」に触れたら

アウト

- ③ 命中したら、当たった「おはじき」はもらうことができる。
- ④ これを交互に行い、当てる「おはじき」が無くなったら終わり。
- ⑤ 最後に「おはじき」の数を数え、一番多く取った者の勝ち。

◆ かっちゃん玉（ビー玉で）

ビー玉を使った遊びである。遊び方は地面に30cm程の三角形を画き、その中に各々のビー玉を入れ置く。三角形から2m程の離れたところに線を引き、線の所から順番に三角形の中にあるビー玉めがけてビー玉を放ち、三角形から出たビー玉は自分の物になるという遊び。ビー玉に当てる命中率を争うもので、普通のビー玉はラムネに入っているような緑一色であるが、何色も入っているカラフルなビー玉もあり数が少ないので、狙い球はカラフルビー玉である。

◆ 缶けり（かんけり）

「かくれんぼ」に缶蹴りを加えた遊びである。広場の中心に缶を置き、隠れる者の代表が勢いよく缶を蹴るやいなや皆は鬼に見つからない場所に隠れる。鬼は蹴られた缶を元に戻した後、隠れた者を見つけ、見つけられた者は鬼の人質になる。しかし、鬼が隠れた者を探している目を盗んで缶を再び蹴り上げると、人質になっていた者は再び隠れる事ができる。

◆ かっぱん、ぽっくり（空き缶と縄で）

空き缶が開いていない側の上に穴を開け、開けた穴に紐を通して端を結び、缶の上に足を載せて歩く。特に、泥や水たまりを歩くのが楽しかった。



◆ ぞうり投げ

現在よりも天気予報が当たらなかった時代の話で、「あーしたてんきになあれ」と言いながら、ぞうりや靴の片方を脱ぎながら蹴り上げ、地面に落ちたときにぞうりが裏返れば雨、表なら晴れと天気予報をする遊び。

◆ くぎさし（釘で）

土のやわらかい場所で、5寸釘（約15cm）を投げての遊び。前に刺さっていた場所と次に刺した場所との間に線を引き、それで相手の進路を塞ぎつつ、より早くゴールを目指すという遊び。

◆ 砂鉄取り

紐に磁石をくくり付けて歩くことにより、道路（未舗装）や作業場跡にある使い古しの釘や鉄粉を集めた。また、砂の中に磁石を入れて鉄粉を集めたりもした。

◆ 鉄砲

火薬の入ったロール状になった玉を鉄砲に入れ、引き金を引くと少しずつ引き出しながら火薬が破裂する。

◆ 銀玉てっぽう

男の子のおもちゃの鉄砲遊びで、駄菓子屋に売っている銀玉（BB弾）を飛ばして遊ぶ。

◆ 煙の出る紙

紙に付いたネバネバを指にくっつけ、指と指をこすり合わせると白い煙が出てくる遊び。

◆ ゴムとび（男跳び、女跳び、逆立ち跳び）

輪ゴムをつないで長いゴムを使った遊び。始めは膝の高さあたりから始まり、だんだん高くして頭の上あたりまで高くした。いろいろな跳び方で競って跳んだ。

◆ ゴム取り

砂の中に輪ゴムを隠し、それを棒で取り合う遊び。

◆ 自転車のリム

使わなくなった自転車の金属部分だけ（リム）を20～30cmの棒で支えて転がす遊び。勢いがないと横に転がってしまうので、技術を要した。

◆ 竹鉄砲

新聞紙を水に浸し丸めたものを竹の筒に入れた後、筒に棒を差し込むとその圧力により丸めた新聞玉を勢いよく飛ばす遊び。

◆ 竹棒遊び

水たまりを竹の棒を使って飛び越える遊び。

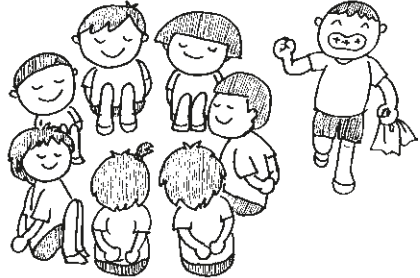
◆ ぱっかん（新聞紙で）

新聞紙を折りたたみ、勢いよく振ると「パカン」という音を出す遊び。

◆ ハンカチ落とし

数人が内側を向いて輪になり座り、鬼になった者はハンカチを持って輪の外側に立つ。

- ① 座っている人は、手のひらを上に向け背中のお尻に出し、目をつぶる。
- ② 鬼は時計回りに輪の外側を歩き、座っているうちの一人の手のひらにハンカチを落とす。
- ③ ハンカチを落とされた人はハンカチを持って立ち上がり、鬼を追いかけて輪の外を時計回りに走る。鬼は捕まらないよう走り、輪の空いているところに座る。
- ④ 鬼は座る前にタッチされたらもう一度鬼をやる。



◆ てるてるぼうず

雨がやむことを願い、新聞紙を丸めた玉に木綿を覆い作った「てるてるぼうず」を軒下にぶら下げること。「てるてるぼうず」には、マジックで「へへのもへじ」の顔を描くことが多かった。

◆ ぱんけん（けんぱん）メンコ

男の遊びである。駄菓子屋で購入した「黄金バット、月光仮面、まぼろし探偵」や友達からもらった「ぱんけん」を取り合う遊びで、地面に双方の「ぱんけん」を表を上置き、次にジャンケンにより相手の「ぱんけん」を裏返す順番を決め、自分の札を相手の札近くに叩きつけ風圧により裏返ったら自分の物になるという取り合い合戦。

風圧を強く与えるにはどうしたらよいか。逆に受けても裏返らないようにするにはどうしたらよいかということで、「ぱんけん」に口を塗り重くすることにより、裏返りにくくする工夫をする者もいた。

◆ 水鉄砲（竹鉄砲）

竹の節を一つ残した竹筒を用意し、真ん中に錐で穴を開け、竹に布を巻いた棒で勢いよく水を押し出して遊ぶ。



◆ わりばし鉄砲

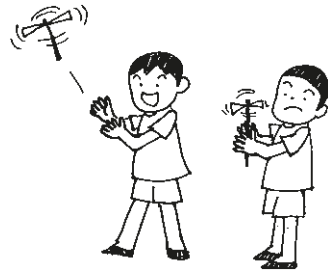
わりばしで作るゴム鉄砲

◆ ゴム鉄砲（ゆび鉄砲）

指にゴムを挟んで飛ばす鉄砲

◆ 竹とんぼ

竹をプロペラのように削り、中央に一つ穴を開ける。次に竹の先をその穴に差し込むように削り、下の部分は細く丸く削る。丸い部分を両手で挟みながら回し、上のプロペラを回転させながら如何に遠くに飛ばすかという遊び。



◆ 竹すべり

長さ1mぐらいの竹を2本用意し、その上に箱を載せて土手の上から滑る遊び。

◆ 段ボールすべり

丘陵地でダンボール紙をソリ代わりにしてすべる遊び。

◆ 将棋

ちゃんとした将棋以外に、次のような遊びもした。

「まわり将棋」（すすみ将棋）は、4角にそれぞれ歩駒を置いてスタートをする。自分の番になったら金駒4枚を盤上にころがす。表の出た枚数だけ進める。台から落ちたり駒が重なったりしたら、1回休みとか進めない

などのルールを作る。また、駒が横に立ったら5マス、縦に立ったら10マス、斜めに立ったら20マスなどルールの取り決めをする。後ろの駒に追い越されたら、1マス内側によける。進路に戻るためには3以上を出さなければならない。4角でうまく止まれば香車、桂馬などと出世していく遊び。

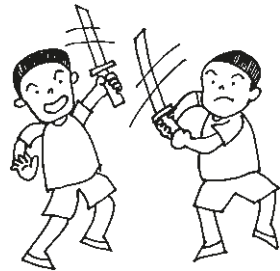
「はさみ将棋」は、2人で遊ぶ。歩駒をそれぞれ9枚持ち駒として、はじめは一番下に横1列に並べて置く。自分の番になったら駒を一つ縦横好きなだけ駒を進めることができ、相手の駒を1つないし2つはさむと取ることができる。どちらかが1枚になると負ける遊び。

◆ パチンコによる投石

市販のY字型パチンコで、遠くの物に狙いを定め投石したり、物に当たると爆発破裂するカンシャク玉を壁めがけて飛ばして破裂させる遊び。

◆ チャンバラ

チャンバラとは、テレビで鞍馬天狗などの時代劇のヒーロー者番組の影響もあり、小学生までの男の子が、木、竹、新聞紙を巻いた棒を剣に見立てて斬り合う遊びをした。



◆ ままごと

おもちゃなどを使い、食事やおやつ作りの真似事をする遊び。泥なども使った。主に女の子が遊んだ。

◆ 紙ずもう

紙で作った力士で相撲をする遊び。

◆ けん玉

いわゆる現在でも行われている「けん玉」遊び。



10 道具を使わない遊び

◆ おしくらまんじゅう

地面に大きな円をかくて全員が円の中に入り、お互いにおしりでも押しで外に出す。最後まで円の中に残っている子が勝ち。冬の寒い日は体が温まる。歌は「おしくらまんじゅう 押されて泣くな」をくりかえす。

◆ ぽこぺん

「ぽこぺんぽこぺん だあれがつついた ぽこぺん」の歌を歌いながら鬼の背中を突いて、だれが突ついたかを当てる遊び。

◆ かくれんぼ

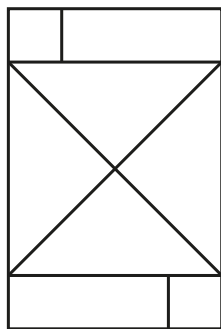
鬼を決めて他の子は隠れる。最初に見つかった子が次の鬼になる。

◆ かげふみ

夕方、自分の影を踏まれると負け、最後まで踏まれないようにする。

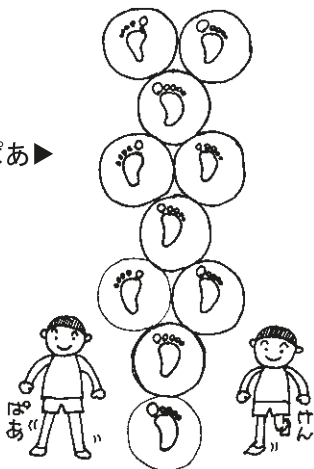
◆ けんけんぱあ

地面に右図のような丸をかき、一つ○は「ケン」で片足、二つ○は「ペア」で両足ですすんでいく。



◀ぞうきんとび

けんけんぱあ▶



◆ ぞうきんとび

地面に上図のような図をかき、マスにタイルか石を入れ、順番に進めていく。人数が多いと図がWになる。

◆ 陣取り

ジャンケンをして勝ったら靴の分だけ半円を描いて、自分の陣地を増やしていく遊び。

◆ だるまさんがころんだ

目隠ししている鬼に近づき、鬼が「だるまさんがころんだ！」と言い終わり、振り向いたときに動いていたらゲームから離れる遊び。

◆ ならめっこ

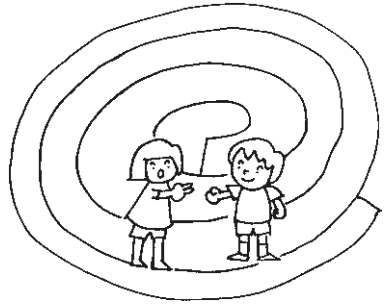
二人が向かい合って「だるまさん だるまさん ならめっこしましょ 笑うと負けよ あっぷっ ぷ」と歌ってから変顔にして相手を笑わせる遊び。

◆ 手合わせ

二人で正面を向いて、両手のひらをお互い合わせ、押したり押されたときに手を引いたりして相手を動かしたら勝ちという遊び。

◆ でんでんむし (うずまきじゃんけん)

右図のような線を地面にかき、中央と外側の二手に分かれ、同時に走り出し、ぶつかったところでジャンケンをし、負けたらもとに戻る。先に相手陣地に乗り込んだ方が勝ち。



◆ うでずもう

机に肘をつけ、力を入れて相手の手を机に付けたら勝ちという遊び。

◆ ゆびずもう

相手の手と手を握り、親指だけ出して、相手の親指を押さえて10数えると勝ちという遊び。

◆ うまのり

2チームに分かれて、右図のように、一人が木の前にいて、あとの子は前の子の股に頭を入れて馬を作る。相手チームは、その上に乗って、馬をこわすともう一度乗ることができるとい遊び。



11 冬の遊び

◆ 雪だるま作り

雪玉を大小2つ作り、大の上に小を載せる。小には炭で目、鼻、口の顔を作り、時には大の方に竹製の手を付けた。

◆ 雪合戦

2組に分かれ、雪で作ったこぶし大の玉を相手チームに当たるよう投げ合う。

◆ 氷すべり

水たまりなどに乗っても割れない厚さに氷が張った時に滑って遊んだ。

◆ 霜柱踏み

昔の冬は寒く、小学校登校時の通学路脇に大きく成長した霜柱があり、上から踏んで楽しんだものである。

12 昔の手作りお菓子、おやつ

◆ おこしもん

米粉を熱湯でこねて、いろいろな模様の木型に入れてコンコンとおこす。色粉で赤・黄・緑の生地を作るか、後で筆で色付けして、その後蒸す。3月の桃の節句のお供え用に作り、それを焼いて醤油をつけて食べた。

◆ 柏餅

上新粉を練り、あんを入れて柏の葉で包み、蒸す。5月の端午の節句にお供えして食べた。

◆ ボロ

餅に色を付けて細かく切って干す。網やほうろくで煎って食べる。年末の餅つきの時に作る。

◆ おへぎ

餅を平たく切って伸ばし干す。油で揚げて食べる。(ヨモギ、キビ、豆)

◆ 焼き芋

稲藁や枯葉やもみ殻を集めて焚火をしたときにサツマイモを入れて焼いて食べた。

◆ 干し芋

蒸したサツマイモを5mmくらいの厚さに切り、天日で干す。寒くて風の強い季節は甘みが出る。

◆ 鬼まんじゅう

サイコロ大に切ったサツマイモを、砂糖を混ぜて練った小麦粉の中に入れて蒸す。

◆ 鉄砲味噌

油で揚げた大豆を甘いみそでからめる。

◆ サトの木 (サトウキビ)

サトウキビを育てている家庭があり、それをかむと甘くておいしかった。

◆ ぼたもち（おはぎ）

ボタンが咲く時期に作るのがぼたもち、萩が咲く時期に作るのがおはぎ。言い方だけが異なるが、物は一緒。表面にあんこやきな粉をつける。

13 自然の恵み

◆ 野イチゴとり

5月になると道ばたに実る真っ赤なバライチゴを取って食べた。

◆ 桑の実とり

昔は養蚕がさかんで、天道地区でも桑畑があちこちにあり、6月頃になると桑の実が熟してくるので、それをとって食べた。

◆ アケビの実とり

秋になるとアケビの実が割れ、実の中には甘く熟した種が現れる。

甘い菓子が少なかった時代にアケビの実は貴重なおやつであったが、種ごと口にふくみ甘み成分を口にに入れるのであるが、種の量が多くその都度吐き出す必要があった。

◆ イタドリの茎

春先の道端や土手にはイタドリが芽を出す。イタドリは食べることはなかったが若芽の外皮をむいて口の中で噛むと程よい酸味があった。

◆ セリ・スイバ・ツクシ・ワラビ

籠川や田んぼの土手でとって、調理して食べた。

◆ ツツジの蜜

学校帰りに花をつまんで、蜜を吸った。甘かった。

◆ ヨモギ

ゆでてもち米に混ぜ、キネでつく。小豆を煮てアンを作り、中に入れて焼いて食べた。

◆ グミ

グミの木の実をとって食べた。甘かったが、渋がすごかった。

14 わらべ歌

◆ 一羽のカラス（なわとびうた）

一羽のカラスがカアカア 二羽のニワトリコケコッコ
三匹魚が泳いでる 四匹白猫にゃーにゃ
五匹子豚がブーブ 六は不明です
七は七羽の七面鳥 八は浜辺のシロウサギ
九はきゅうきゅう九官鳥
（そろった そろった 一抜け 二抜け 三抜け）

遊び方

長縄跳びで歌いながら順番に入っていく。そろったら、また順番に出ていく。



◆ 一かけ二かけ

一かけ 二かけ 三をかけ 四かけて 五かけて 橋をかけ
 橋の欄干 手を腰に(腰をかけ) はるか向こうを眺めれば
 十七八の 姉(ねえ)さんが 袂(たもと)をくわえて 泣いて
 ます もしもし 姉さんどうしたの 私は九州鹿児島
 西郷隆盛娘です 明治10年3月3日
 切腹なされた父母の お墓参りを いたします
 お墓の前で手を合わせ なんまだぶつと となえれば(拝みます)
 そのとき出たのは 幽霊です ふわりふわり(で)
 じゃんけんぽん (歌に合わせてふりをする)

The musical score is written in 4/4 time and consists of 32 measures across 8 staves. The melody is simple and rhythmic, with many eighth and sixteenth notes. Measure numbers 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 26, 27, 28, 29, 30, 31, and 32 are indicated at the beginning of their respective measures.

◆ 茶摘み（手遊び）

- ① せっせ せっぱらりのせ 夏も近づく 八十八夜
野にも山にも 若葉が茂る あれに見えるは
茶摘みじゃないか あかね襷（たすき）に すげの笠
- ② 日より続きの 今日この頃を 心のどかに 摘みつつ歌う
摘めよ 摘め摘め 摘まねばならぬ 摘まにゃ日本の
茶にならぬ

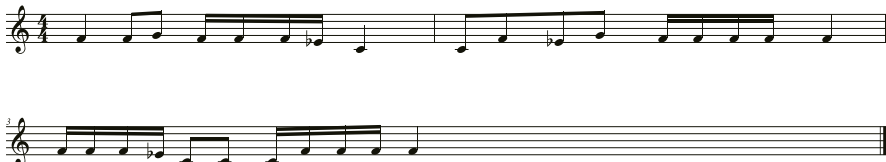
遊び方

両手を出して相手の手と交互に手合わせをして遊ぶ。



◆ じゃんじょろじょろかくし (全員の靴の片方を並べて)

じゃんじょろじょろかくし おじょろで はなかんで
も一つかんで うんとこしょ 牛かうか 馬かうか
牛の代わりに 馬かった



◆ いちばんはじめは (なわとび歌)

一番はじめは 一宮 二は 日光東照宮
三は 佐倉の惣五郎 四はまた 信濃の善光寺
五つ 出雲の大社(おおやしろ) 六つ 村々 鎮守さん
七つ 成田の不動さん 八つ 大和(やまと)の博覧会
九つ 高野(こうや)の弘法さん
十(とお)は 東京博覧会
十一 心願 かけたなら 浪子の病は 治らぬか
武男が戦争に行くときは 白い白い真っ白い
ハンカチふりふりねえあなた 早く帰ってちょうだいな
ごおごおごおごお なる汽車は 武男と浪子の 別列車
二度と会えない汽車の窓 鳴いて血を吐く ほととぎす

遊び方

1人ずつ順番に出入りし、11の子は歌の終わりまで長く飛ぶ。

▼ いちばんはじめは

Musical score for 'Ichiban Hajime wa' (First Time). The score is written in 4/4 time and consists of ten staves of music. The melody is simple and repetitive, featuring a sequence of eighth and quarter notes. The first staff begins with a treble clef and a 4/4 time signature. The music is divided into measures by vertical bar lines. The score is presented in a clean, black-and-white format.

◆ 棒が1本あったとさ (おえかき歌)

棒が1本あったとさ 葉っぱかな かえるかな インド人かな
3+3は6ですよ あっという間に コックさん



◆ あの子がほしい

勝ってうれしい花いちもんめ 負けて悔しい花いちもんめ
あの子がほしい あの子じゃわからん この子がほしい この子じゃわか
らん 相談しましょ そうしましょ (輪になって相談する)
○○ちゃんがほしい △△ちゃんがほしい

遊び方

二手に分かれ、グループごとに手をつないで、交互に歌い、指名された二人がジャンケンをして、勝ったら負けた子がもらえる。



◆ あんたがたどこさ（まりつき歌）

あんたがたどこさ 肥後さ 肥後どこさ 熊本さ 熊本どこさ
せんばさ せんば山には 狸がおってさ それを獵師が
てっぽで撃ってさ 煮てさ 焼いてさ 食ってさ それを
木の葉でちよいと隠す
（ああうまかったとさ お茶のこ さいさい）

遊び方 一人遊び。

まりを一つつきながら、今ついている手のほうの足をくぐらせる。歌いながらまりをつく。



◆ ずいずいずっころばし

ずいずいずっころばし ごまみそずい 茶壺に追われて
どっぴんしゃん 抜けたら どんどこしょ 俵のねずみがコメ食って
ちゅう ちゅうちゅうちゅう
おっとさんがよんでも おかっさんがよんでも いきっこなああしーよ
井戸のまわりで お茶碗欠いたのだあれ

遊び方

3～5人が円陣を組み、各自親指と人差し指で輪を作る。一人が歌いながら、人差し指をみんなの指の輪に順番に挿していく。

◆ かごめ かごめ

かごめ かごめ かごのなかの鳥は 一つ一つでえやある
よあけのばんに つると かめがすべった 後ろの正面 だあれ

遊び方

円陣を組んで、中央に一人が鬼になり、自分の手で目かくしをしてしゃがむ。残りの子は鬼を囲んで輪を作る。隣の人と手をつないで回りながら、みんなで歌を歌って「後ろの正面だあれ」で止まった時に、鬼の後ろにいる子を当てる。後ろにいる子は、当てられないように鼻をつまんだりして変な声を出す。当てられた子は、次の鬼になる。

◆ とおりゃんせ

とおりゃんせ とおりゃんせ ここはどこか ほそみちじゃ
(てんじんさまの ほそみちじゃ)
ちっとおして くだしゃんせ
(ごようのないもの とおしゃせぬ)
このこのななつの おいおいに おふだをおさめに まいります
いきはよいよいかえりはこわい
こわいながらも とおりゃんせ とおりゃんせ

遊び方

二人が向かい合わせに立ち、両手をつないで山をつくる。他の子（10人くらい）は歌いながらその山をくぐる。歌の終わりに山の人の輪に、一人が入る。

◆ 天道子供会の歌

こいこい 天道の子供会 子どもどうしが 集まって
みんなの 知恵を出し合おう 雨にも風にも負けないで
楽しい世界を作ろうよ



◆ おじょうさんおはいり (なわとび歌)

おじょうさん おはいり ありがとう じゃんけんぽん
まけたら さっさと おにげなさい

遊び方 二人がなわとびを回しながら歌う。

「お嬢さんおはいり」の歌に合わせて縄を跳ぶ。一人ずつ入って、跳びながら二人でじゃんけんをして、勝つと続けて跳び、またじゃんけんをする。負けたら外に出て、次の子が入ってじゃんけんをする。

編集を終えて

現代の遊びの主流は、ゲームソフトでしょうか。バーチャル体験ができ、仮想現実の世界が子どもから大人まで楽しめます。それに引き換え、昔の遊びを考えてみると、生活の中で考え出したものが多いかと思います。何もなくても一人でも遊べる、二人いれば仲間と遊べる、自然と遊ぶなど、電気がなくても生活の中で遊んでいたのかなあと思います。

わらべ歌については、楽譜を掲載しました。Youtubeでも音源として聴けるようにしてありますので、ご活用ください。Youtubeは、天道自治区のホームページのリンクからご覧いただけます。

連絡先 天道自治区

TEL 46-6070

FAX 46-6070

HP <http://tendoku.sakura.ne.jp/>

Mail tendouku@spice.ocn.ne.jp



編集委員

加藤 順子 加藤 康博 山内 茂昭 加藤廉一郎 柴田 和則 杉浦 基之
小栗 一夫 大地 幸次 今井 菊男 渡邊 仁司 山本千枝子



イラスト
加藤かおり



天道自治区 HP

(四郷)天道ってこんなところ

昔の遊び編

天道諺言伝え編集委員会
令和2年度井郷わくわく事業

連絡先 天道自治区 TEL 46-6070 FAX 46-6070
Mail tendouku@spice.ocn.ne.jp
URL <http://tendoku.sakura.ne.jp/>
発行日 令和3年(2021年)2月20日
印刷所 サナゲ印刷株式会社
愛知県豊田市四郷町天道8
TEL 45-0081 FAX 45-1861
